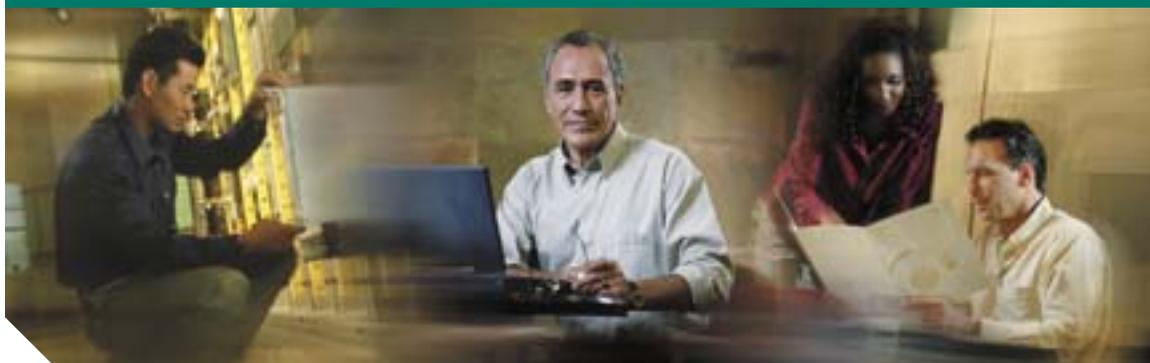




電話ガイド



Cisco IP Video Phone 7985G 電話ガイド

ライセンスおよび保証

Customer Order Number: DOC-J-7816798=
Text Part Number: 78-16798-01-J





Contents

はじめに	1
このガイドの使用方法	1
安全および使用における情報	2
アクセシビリティ	4
日本語化マニュアルと URL	4
ビデオ電話機の接続	5
ビデオ電話機の概要	7
ボタンとハードウェア	8
スクリーン レイアウト	13
コール処理とナビゲーションのヒント	14
利用可能な機能について	14
オンフックとオフフック	14
回線とコールの違いについて	14
コールの選択	16
コールの切り替え	17
機能メニューの使用	18
テキストの入力と編集	18
電話機に関するヘルプの表示	19
基本的なコール処理	20
ビデオ コールを発信する前に	20
ビデオ コールの発信	21
ビデオ コールへの応答	23

ビデオ コールの終了	24
電話コール	24
コールの保留と復帰	25
発信ビデオ映像の表示	26
ビデオまたは音声のミュート機能	26
接続コールの転送	27
会議コールの発信	28
標準の会議の開催と参加	28
ミーティング会議コールの開催または参加	30
別の電話番号へのコール転送	31
応用的なコール処理	32
パークされているコールの保存と取得	33
呼び出し中のコールを自分の電話機にリダイレクトする	33
共有回線について	34
共有回線でサポートされるコールの最大数について	34
共有回線のコールへの参加	34
他人による共有回線のコールの表示および参加の防止	36
不審なコールのトレース	36
重要なコールの優先順位付け	37
ヘッドセットとスピーカフォンの使用	38
ヘッドセットの購入	39
ヘッドセットまたはスピーカフォン使用時の自動応答	39
電話機の設定のカスタマイズ	40
音量の調節	40
アラート トーンのカスタマイズ	41
モニタの明るさのカスタマイズ	41
短縮ダイヤル番号の設定	42

ボイス メッセージ、履歴、およびディレクトリの使用	44
ユーザ オプション Web ページへのアクセス	46
ユーザ オプション Web ページへのログイン	47
その他の設定オプションについて	48
シスコ製品（ハードウェア）に関する 1 年間の限定保証規定	49
索引	



Figures

図 1	Cisco IP Video Phone 7985G のケーブルの接続	5
図 2	Cisco IP Video Phone 7985G のハンドセット ブラケット	6
図 3	Cisco IP Video Phone 7985G の外観	9
図 4	Cisco IP Video Phone 7985G のキーパッド	10
図 5	Cisco IP Video Phone 7985G のスクリーン レイアウト	13



はじめに

このガイドの使用方法

このガイドでは、電話機で使用可能な機能の概要について説明しています。電話機の機能について確実に理解するには、このガイドをよく読んでください。次の表に、よく使用される項目を示します。

目的	操作
ビデオ電話機について調べる	ヘルプが必要な場合は、  (ヘルプボタン) を押してください。
安全情報を参照する	P. 2 の「安全および使用における情報」を参照してください。
設置後にビデオ電話機を使用する	P. 7 の「ビデオ電話機の概要」を参照してください。
ビデオ電話機を接続する	P. 5 の「ビデオ電話機の接続」を参照してください。
ボタンの意味を確認する	P. 8 の「ボタンとハードウェア」を参照してください。
スクリーン レイアウトについて確認する	P. 13 の「スクリーン レイアウト」を参照してください。
コールを発信する	P. 21 の「ビデオ コールの発信」を参照してください。
コールを保留にする	P. 25 の「コールの保留と復帰」を参照してください。
ミュートにする	P. 26 の「ビデオまたは音声のミュート機能」を参照してください。
コールを転送する	P. 27 の「接続コールの転送」を参照してください。
会議コールを発信する	P. 28 の「会議コールの発信」を参照してください。
番号を共有する	P. 34 の「共有回線について」を参照してください。
ビデオ電話機をスピーカフォンとして使用する	P. 38 の「ヘッドセットとスピーカフォンの使用」を参照してください。
呼出音またはコールの音量を変更する	P. 40 の「音量の調節」を参照してください。
別の呼出音を選択する	P. 41 の「アラート トーンのカスタマイズ」を参照してください。
スクリーンの明るさをカスタマイズする	P. 41 の「モニタの明るさのカスタマイズ」を参照してください。

安全および使用における情報

ビデオ電話機の設置および使用

次の安全上の注意事項を読んでから、Cisco IP Video Phone の設置と使用を始めてください（警告の翻訳については、『*Regulatory Compliance and Safety Information for the Cisco IP Phone 7900 Series*』を参照してください）。



警告

安全上の重要な注意事項

「危険」の意味です。人身事故を予防するための注意事項が記述されています。装置の取り扱い作業を行うときは、電気回路の危険性に注意し、一般的な事故防止策をとるよう努めてください。本装置に添付されている安全上の警告の翻訳を参照するには、各警告のステートメント番号を使用してください。

これらの注意事項を保管しておいてください。



警告

必ず、取り付け手順を読んでから、システムを電源に接続してください。



警告

この製品を廃棄処分する際には、日本国の法律および地方自治体の条例または規則に従ってください。



警告

雷の発生中は、システムでの作業、またはケーブルの接続や取り外しを行わないでください。



警告

感電事故を防ぐために、安全超低電圧 (SELV) 回路を電話網電圧 (TNV) 回路に接続しないでください。LAN ポートには SELV 回路があり、WAN ポートには TNV 回路があります。一部の LAN ポートと WAN ポートはいずれも、RJ-45 コネクタを使用しています。ケーブルを接続する場合には、注意してください。



警告

電話機のハンドセットは、ピンや止め金などの小さな磁性体を引き寄せる可能性のある磁場を発生させます。事故防止のため、そうした磁性体を扱うような場所にはハンドセットを置かないでください。

外付け電源装置の使用

次の警告は、Cisco IP Video Phone 7985G を外付け電源装置と使用する場合に適用されます。



警告

この製品は、設置する建物に短絡 (過電流) 保護機構が敷設されていることが前提になっています。各相導体 (すべての通電導体) に 120 VAC、15A (日本および米国) または 240 VAC、10A (前記以外の国) 以下のヒューズ、または回路ブレーカーが使用されていることを確認してください。



警告

この装置は、TN 電源システムを使用して動作するように設計されています。



警告

プラグとソケットは常に手を伸ばして利用できる状態にしておく必要があります。これは、プラグとソケットが主要な切断装置であるためです。



注意

この製品では、シスコが指定する電源装置だけを使用してください。

Cisco IP Phone での外部デバイスの使用

次の情報は、Cisco IP Video Phone で外部デバイスを使用する場合に適用されます。

シスコでは、不要な Radio Frequency (RF; 無線周波数) および Audio Frequency (AF; 可聴周波数) が遮蔽された高品質の外部デバイス (ヘッドセットなど) の使用を推奨しています。

これらのデバイスの品質や、携帯電話および双方向ラジオなど他のデバイスとの間隔によっては、雑音が入ることもあります。その場合は、次のいずれかの方法で対処してください。

- RF または AF の信号源から外部デバイスを離す。
- RF または AF の信号源から外部デバイスのケーブルの経路を離す。
- 外部デバイス用に遮蔽されたケーブルを使用するか、遮蔽およびコネクタが高品質のケーブルを使用する。
- 外部デバイスのケーブルを短くする。
- 外部デバイスのケーブルに、フェライトまたは同様のデバイスを適用する。

シスコでは、外部デバイス、ケーブル、コネクタの品質については制御できないため、システム パフォーマンスを保証することはできません。良品質のケーブルおよびコネクタを使用して適切なデバイスを接続すると、十分なシステム パフォーマンスを得られます。



注意 欧州連合諸国では、EMC Directive [89/336/EC] に完全に準拠した外部ヘッドセットだけを使用してください。

アクセシビリティ

アクセシビリティ機能のリストおよび本書の利用しやすい形式は、申し込みにより入手可能です。

日本語化マニュアルと URL

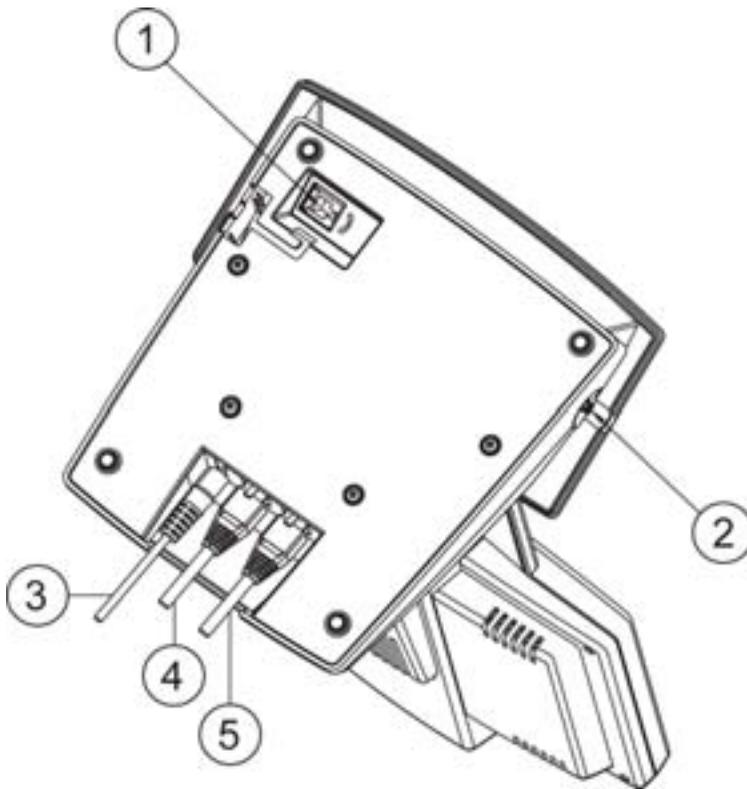
このマニュアルには、日本語化されたマニュアル名と英語版 URL が併記された箇所があります。日本語版マニュアルを参照する場合は、次の URL にアクセスしてください。

http://www.cisco.com/japanese/warp/public/3/jp/service/manual_j/index_ipt.shtml

ビデオ電話機の接続

通常は、システム管理者が新しい Cisco IP Video Phone 7985G を企業 IP ネットワークに接続します。それ以外の場合は、次の図および表を参照して、電話機を接続してください。

図 1 Cisco IP Video Phone 7985G のケーブルの接続



1	ハンドセットのプラグ	4	ネットワーク ケーブル、SW ポート (10/100 SW)
2	ヘッドセットのプラグ	5	ネットワーク ケーブル、PC ポート (10/100 PC)
3	電源ケーブル、48V DC		

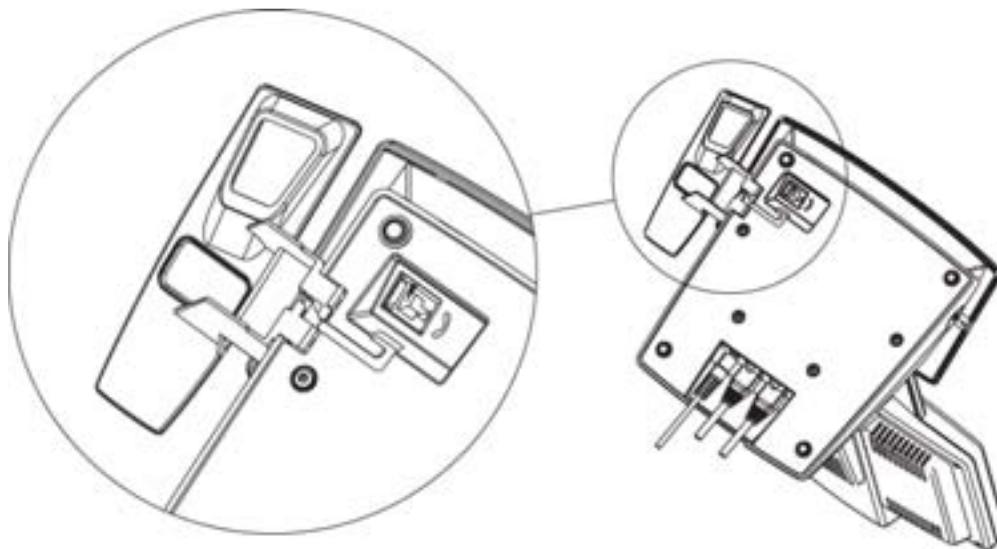
ハンドセット ブラケットの取り付け

ステップ 1 図に示されているように、ハンドセット ブラケットを溝に差し込みます。溝にしっかりと押し込んでください。

ステップ 2 ビデオ電話機の下面にハンドセット ケーブルを接続します。

ステップ 3 システムをまっすぐに立て、所定の場所にハンドセットを置きます。ハンドセットは、磁石によって適切な位置で支えられます。

図 2 Cisco IP Video Phone 7985G のハンドセット ブラケット



ビデオ電話機の概要

Cisco IP Video Phone 7985G は、ご使用のコンピュータが使用しているデータ ネットワークを介して、業務用の優れたビデオ映像を提供します。7985G は、個別の職場環境に対応するように設計されているので、電話コールのように簡単にビデオ会議を実施できます。ビデオ電話機は、Cisco IP Phone と同じソフトキーの機能と特徴を備えています。したがって、ビデオ電話機では、コールの発信、受信、保留、転送、会議コールの開設などが可能であり、さらに発信者の映像も見ることができるという利点があります。

設計上の特徴は次のとおりです。

- あらゆる職場環境において、個人のビデオ映像に対応できるように設計された一体化システム
- 8.4 インチの統合 LCD
- 人間工学的に配慮されたカメラとスクリーンの適切な配置
- 音声コールとビデオ コールの両方に対応する統合キーパッド
- ビデオ電話機を簡単に制御できるソフトキー
- ハンドセット、スピーカフォン、およびヘッドセットのジャック
- ネットワークのデータとサービスへのアクセス
- ユーザ オプション Web ページからのオンライン制御(コンピュータで Web ブラウザを使用して電話機の機能をカスタマイズします)
- 包括的なオンライン ヘルプ システム (役に立つヒント、説明、および操作手順を電話機から直接入手します)

この後の各項で、ビデオ電話機の外観およびビデオ電話機との相互の通話に関するヒントについて説明します。今までに、他の Cisco IP Phone を使用していた場合でも、Cisco IP Video Phone 7985G で提供される新機能について調べる際には、これらの情報が役立ちます。

ボタンとハードウェア

Cisco IP Video Phone 7985G は、次のハードウェア機能を備えています。

- スピーカフォン モードまたはヘッドセット モードのサポート
- 電話機の機能にアクセスする 5 つのソフトキー ボタン
- メッセージ、ディレクトリ、サービス、および設定に簡単にアクセスする 4 つの機能ボタン
- 組み込みのオンライン ヘルプにワンタッチでアクセスするボタン
- ビデオ専用のボタン (表示、明るさ、セルフ ビュー、および子画面 (PiP))
- ビデオ電話機の回線を表示するボタン

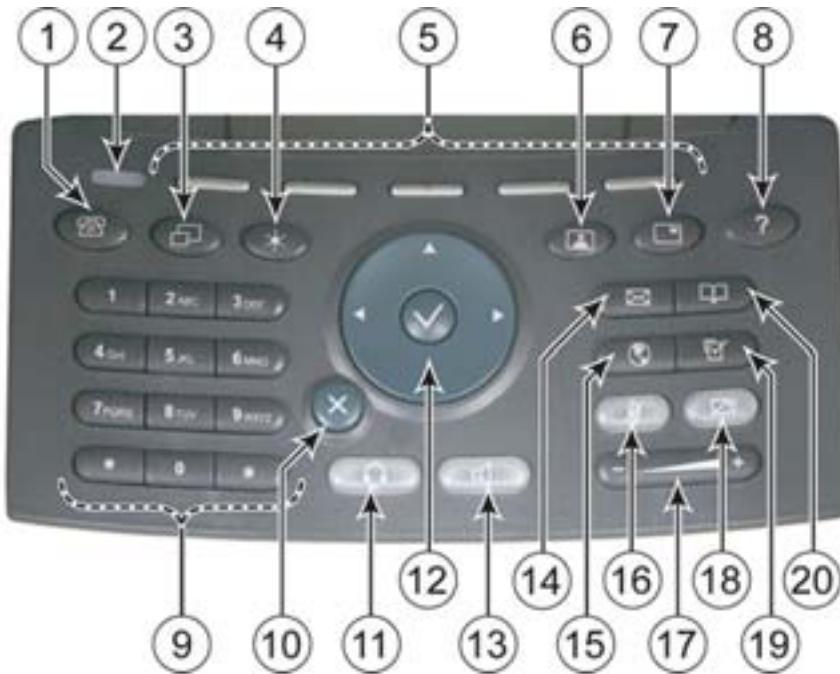
詳細については、次の図および表を参照してください。

図 3 Cisco IP Video Phone 7985G の外観



1	カメラ	<p>カメラの傾きと焦点は手で調節できます。焦点を合わせるには、レンズを回します。カメラを傾けるには、レンズの右側にあるホイールを使用して傾きの角度を手動で調節します。</p> <p> ヒント</p> <p>自分のビデオ映像を表示するには、最初にセルフ ビュー ボタンを押します。</p>
2	マイクロフォン	電話機にはマイクロフォンが付属しており、電話機の上部に設置されています。
3	LCD モニタ	電話機には 8.4 インチの LCD モニタが付属しています。
4	ハンドセット	Cisco IP Video Phone 7985G にはハンドセットが付属しており、磁石によって適切な位置で支えられます。
5	スピーカ	電話機にはスピーカが付属しており、キーパッドとスクリーンの上に設置されています。
6	カメラのレンズキャップの装着	電話機を使用していないときにレンズをカバーするには、電話機の背面に設置されているカメラのレンズキャップを使用します。カメラのレンズキャップはレンズを保護するだけでなく、誤って自分のビデオ映像を送信してしまうことを防止します。
7	キーパッド	キーパッドには、システムの制御に必要なキーがすべて含まれています。

図 4 Cisco IP Video Phone 7985G のキーパッド



1	回線ボタン 	回線メニューのオン / オフを切り替えます。回線メニューでは、電話機で使用できる回線が表示され、回線の変更が可能です。また、短縮ダイヤルを設定していれば、それも回線メニューに表示されます。
2	通知ランプ 	着信コールがあった時、またはボイスメールを受信した時に点滅します。
3	表示ボタン 	メニューのオン / オフを切り替えます。
4	明るさボタン 	モニタの明るさを調節します。P. 41 の「モニタの明るさのカスタマイズ」を参照してください。
5	ソフトキー 	スクリーン上の対応するソフトキーに表示されている機能を有効にします。
6	セルフ ビュー ボタン 	ビデオ映像を着信ビデオから発信ビデオに切り替えます。P. 26 の「発信ビデオ映像の表示」を参照してください。

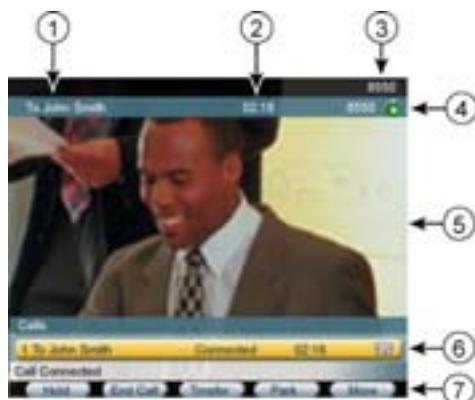
7	子画面 (Picture in Picture) 	発信ビデオを子画面に表示します。子画面 (PiP) ボタンを 1 回押すと、PiP が右上隅に表示されます。続けて子画面ボタンを押すと、映像がスクリーンの他の 3 つの隅に移動し、最後は非表示になります。P. 26 の「発信ビデオ映像の表示」を参照してください。
8	ヘルプ ボタン 	ヘルプ メニューをアクティブにします。P. 19 の「電話機に関するヘルプの表示」を参照してください。
9	番号と文字のボタン	電話番号のダイヤル、文字の入力、およびメニュー項目の選択に使用します。メニュー項目の選択には、番号キーも使用できます。
10	キャンセル ボタン 	戻ることができます。入力フィールドでデータを削除するには、キャンセル ボタンを使用します。
11	ヘッドセット ボタン 	ヘッドセット モードのオン / オフを切り替えます。
12	ナビゲーション ボタン 	メニューのスクロールや項目の強調表示に使用します。このボタンをソフトキーと組み合わせて使用すると、強調表示された項目をアクティブにすることができます。右矢印と左矢印を使用してテキスト フィールドを移動し、そのフィールドを編集することができます。 中央のボタンで、メニュー項目をアクティブにすることができます。また、このボタンをヘルプ ボタンと一緒に使用すると、メニュー項目に関する状況依存ヘルプが表示されます。
13	スピーカ ボタン 	スピーカフォン モードのオン / オフを切り替えます。
14	メッセージ ボタン 	メッセージ メニューのオン / オフを切り替えます。
15	サービス ボタン 	サービス メニューのオン / オフを切り替えます。サービス メニューでは、割り当てられたサービスや登録済みのサービスなどの電話機サービスにアクセスできます。
16	ミュート 	ミュート機能のオン/オフを切り替えます。ミュートがアクティブになっている場合、相手の発信者にはビデオ映像は見えますが、音声は聞こえません。
17	音量ボタン 	音量を調節します。P. 40 の「音量の調節」を参照してください。

18	ビデオ ミュート 	ビデオ ミュート機能のオン / オフを切り替えます。ビデオ ミュートがアクティブになっている場合、相手の発信者にはビデオ映像は見えません。
19	設定ボタン 	設定メニューのオン / オフを切り替えます。P. 40 の「電話機の設定のカスタマイズ」を参照してください。
20	ディレクトリ ボタン 	ディレクトリ メニューのオン / オフを切り替えます。ディレクトリ メニューでは、履歴（不在、着信、および発信）と社内ディレクトリが表示されます。P. 44 の「ボイス メッセージ、履歴、およびディレクトリの使用」を参照してください。

スクリーン レイアウト

次の例は、アクティブなビデオ コールでメイン スクリーンがどのように見えるかを示しています。メニューは、スクリーン上のビデオ映像の前面に半透明の層として表示されます。メニューのオン / オフを切り替えるには、 (表示ボタン) を押します。

図 5 Cisco IP Video Phone 7985G のスクリーン レイアウト



1	ID	発信者の ID または着信者の ID (システムの名前) を表示します。
2	通話時間	通話時間を表示します。
3	プライマリ回線	プライマリの番号またはオフィスの内線番号を表示します。
4	コールの概要	現在アクティブになっている回線およびその回線に割り当てられている設定済みの電話番号を表示します。アイコンは、コールの状態を示しています。P. 14 の「コール処理とナビゲーションのヒント」を参照してください。
5	ビデオ映像	着信ビデオ映像を表示します。発信ビデオ映像を表示するには、セルフビュー ボタンを押します。
6	コール アクティブ ティ	各回線の現在のコール (発信者 ID、コールの状態、および通話時間) を表示します。
7	ソフトキーのラベル	ソフトキーの機能を表示します。ソフトキーをアクティブにするには、  (ソフトキー ボタン) を押します。

コール処理とナビゲーションのヒント

このガイドラインは、Cisco IP Video Phone でのコールの処理、およびメニューのナビゲートに役立ちます。

利用可能な機能について

利用可能な機能とサービスおよびそれらの設定方法は、社内の電話機サポート チームが決定します。このため、このビデオ電話ガイドに記載されている機能の一部がご使用の電話機システムで利用できない、または動作が異なる場合があります。利用可能な機能について確認する場合は、社内のサポート デスクまたはシステム管理者にお問い合わせください。

オンフックとオフフック

電話機がオンフックかオフフックかによって、電話機の作業や操作手順が異なることがあります。

- **オンフック**：電話機のハンドセットが受け台に置かれている状態。アクティブになっているコールはなく、アクティブなダイヤル トーンも聞こえません。電話機には、オンフック ダイヤル、つまり電話番号を入力または選択してからコールをアクティブにできる機能が備わっています。
- **オフフック**：電話機のハンドセットが受け台から取り上げられているか、スピーカフォンがアクティブになっている状態、あるいは、その他の方法によって（コールを発信するための）ダイヤル トーンが聞こえているか、着信コールに応答できる状態です。

回線とコールの違いについて

電話機の回線とコールを混同しないようにしてください。混同しないために、次の説明を参考（ヒント）にしてください。

回線

電話機は、システム管理者がプログラマブル ボタンを設定した方法に応じて、最大 2 つの回線または内線番号をサポートできます。回線の数を確認するには、回線ボタンを押して回線メニューを開きます。回線と内線番号の数は同じです。

各回線は、電話機の設定に応じて、一定数のコールをサポートできます。デフォルトでは、各回線は最大 4 つのコールをサポートできますが、システム管理者は必要に応じてこの数を調整できます。このため、電話機には 1 回線しかない場合でも、複数のコールを処理していることがあります。

コール

各電話機は、回線の数にかかわらず、最大 100 コールをサポートします。1 回線の場合、システム管理者は、その 1 回線で 100 コールまでサポートするように電話機を設定できます。あるいは、2 回線の場合は、各回線で 50 コールをサポートすることで、最大 100 コールをサポートできます。

コールには、さまざまな状態があります。それらの状態は、コール アクティビティ領域の特別なアイコンで示されます。アクティブとなり得るコールは常に 1 つに限定されます。アクティブなコールとは、接続コールまたは進行中のコール（電話番号のダイヤル中または発信コールの呼出音が鳴っている状態のコール）のことです。その他のコールは、呼び出し中、保留、またはリモートで使用中（共有回線の場合）の状態になります。

アイコン	コールの状態	説明
	接続コール	通信相手に現在接続中のアクティブなコールのタイプ。電話機の機能の多くは、接続コールを必要とします。
	オフフック	電話番号のダイヤル中または発信コールの呼出音が鳴っている状態のアクティブなコールのタイプ。まだ通話相手に接続されていません。詳細については、P. 21 の「ビデオ コールの発信」を参照してください。
	オンフック	この回線のコール アクティビティはありません。オンフック ダイヤル機能を使用している場合でも、オフフックにするまでは進行中のコールになりません。詳細については、P. 21 の「ビデオ コールの発信」を参照してください。
	呼び出し中	いずれかの回線で着信コールの呼出音が鳴っています。詳細については、P. 21 の「ビデオ コールの発信」を参照してください。
	コールの保留	コールが保留になっています。詳細については、P. 25 の「コールの保留と復帰」を参照してください。
	共有回線	共有回線の別の電話機に、アクティブな接続コールがあります。詳細については、P. 34 の「共有回線について」を参照してください。

コールの選択

電話機の機能の多くは、その機能の対象となるコールが選択されていることを前提にしています。たとえば、保留中のコールが 15 あるうち、4 コールだけを会議コールに参加させるとします（デフォルトでは、参加者の最大数は 4 です）。このような場合は、会議コールに追加するコールだけを選択してから、機能を有効にします。

目的	操作
コールを強調表示する	ナビゲーションボタンを使用して、コールのリストをスクロールします。
コールを選択する	接続コールまたは保留状態のコールを強調表示し、 Select を押します。選択されたコールの横に、☑（チェックマーク）が表示されます。
選択したコールを確認する	ナビゲーションボタンを使用して、コールのリストをスクロールします。選択されたコールは ☑（チェックマーク）で示され、コールのリストでまとめて表示されます。

コールの切り替え

電話機は、システム管理者が電話機システムを設定した方法に応じて、各回線で複数のコールをサポートできます。次に示すヒントは、1本または複数の回線でコールを切り替えるときに役立ちます。

目的	操作
特定の回線における現在のコールを表示する	 (回線ボタン) を押し、回線を選択します。コール アクティビティ領域に、その回線における現在のコールの情報が表示されます。別の回線に切り替えると、最初の回線における接続コールはすべて自動的に保留状態になります。
同じ回線のコールを切り替える	切り替え先のコールを強調表示し、 Resume を押します。
異なる回線のコールを切り替える	 (回線ボタン) を押し、回線を選択します。コールを選択し、 Resume を押します
接続コールから切り替えて呼び出し中のコールに回答する	Answer を押して新しいコールに回答し、最初のコールを自動的に保留状態にします。
コールの概要を表示する	 (回線ボタン) を押して、各回線の最初のコールの概要を表示します。

ヒント

- アクティブとなり得るコールは常に1つに限定されるので、他のコールは自動的に保留状態になります。
- 同じ回線に複数のコールがある場合は、優先順位が最も高く、通話時間の最も長いコールがコールのリストの先頭に表示されます。
- 同じタイプのコールは、コールのリストでまとめて表示されます。たとえば、相互に通話したコールは先頭付近にまとめて表示されます。次に、選択されたすべてのコールがまとめて表示されます。最後に、まだ応答していないコールまたは他の方法で相互に通話したコールが末尾にまとめて表示されます。

機能メニューの使用

目的	操作
機能メニューを開く	次の機能ボタンを押します。  メッセージ  サービス  ヘルプ  ディレクトリ  設定
リストまたはメニューをスクロールする	ナビゲーション ボタンを押します。
機能メニューの1つ前のレベルに戻る	Exit を押します。このとき、メニューの最上位レベルで Exit を押すと、メニューが閉じます。
機能メニューを閉じる	機能ボタンを押します（機能メニューだけが表示されている場合）。または、メニューが閉じるまで Exit を何度か押します。

テキストの入力と編集

目的	操作
スクリーンで文字を入力する	キーパッドで該当する番号を何度か押して文字を選択します。休止すると、カーソルが自動的に先へ移動し、次の文字を入力できる状態になります。テキスト フィールド内を移動するには、右または左のナビゲーション ボタンを使用します。
大文字を入力する	大文字を入力するには、a/A とラベルされたボタンを押します。
入力した文字を削除するか、またはカーソルの位置を移動する	文字や数字を1つ削除するには、<< または Delete を押します。>> を押すと、カーソルが右に移動します。文字の削除には、キャンセル ボタンも使用できます。

電話機に関するヘルプの表示

Cisco IP Video Phone には、包括的なオンライン ヘルプ システムが備わっています。ヘルプの項目はスクリーンに表示されます。次の表に詳細を示します。

目的	操作
メイン メニューを表示する	<p>電話機の  (ヘルプ ボタン) を押し、メニューが表示されるまで数秒待ちます。ヘルプがすでに表示されている場合は、Main を押します。</p> <p>メイン メニューから、次の項目を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • About Your Cisco IP Phone : ご使用の電話機のモデルに関する詳細な説明 • How do I...? : よく使用される電話機のタスクに関する手順や情報 • Calling Features : 会議や転送などのコール機能に関する説明や手順 • Help : ヘルプの使用やアクセスに関するヒント
ボタンやソフトキーを確認する	 (ヘルプ ボタン) を押してから、すばやくボタンまたはソフトキーを押します。
メニュー項目を確認する	メニュー項目を強調表示して  (ヘルプ ボタン) をすばやく 2 回押します。
Help を使用してヘルプを表示する	 (ヘルプ ボタン) を押します。1 ~ 2 秒待ってから Main を押し、メイン メニューから Help を選択します。

基本的なコール処理

この章では、コールの発信、応答、転送、および会議コールなど、基本的なコール処理のタスクについて説明します。これらのタスクを実行するために使用する標準機能は、ほとんどの電話機システムで利用できます。

ビデオ コールを発信する前に

ビデオ コールを発信する前に、自分がカメラの撮影範囲に入っていること、および照明の状態が良好であることを確認してください。

目的	操作
自分のビデオ映像を表示する	カメラからレンズ キャップを外します。自分のビデオ映像を表示するには、事前に  (セルフ ビュー ボタン) を押します。
カメラを調節する	カメラの傾きと焦点は手動で調節できます。傾きを調節するには、カメラを上下に傾けます。焦点を合わせるには、カメラのレンズを回します。
カメラの明るさを調節する	明るさを調節するには、  (明るさボタン) を押します。

ビデオ コールの発信

別のビデオ電話機にコールを発信する場合、そのコールは自動的にビデオ コールとして設定され、接続と同時に着信者のビデオ映像がスクリーンに表示されます。ビデオ コールを発信するには、いくつかのオプションのいずれかを使用して、番号をダイヤルする前または後にオフフックにします。

目的	操作
オフフックでダイヤルする	<p>ハンドセットを受け台から取り上げると、コールメニューが表示されます。ビデオ番号または電話番号をダイヤルし、コールが接続されるのを待ちます。</p>
オンフックでダイヤルする (ダイヤルトーンなし)	<p>番号キーでビデオ番号または電話番号を入力します。</p> <p>その後、コールを発信するために、次のいずれかの操作を実行してオフフックにします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ハンドセットを取り上げる。 •  (スピーカ ボタン) または  (ヘッドセット ボタン) を押す。 • Dial を押す。
スピーカフォンを使用して ダイヤルする	<p>New Call を押し、ビデオ番号または電話番号を入力します。あるいは、ダイヤル、リダイヤル、または短縮ダイヤルの操作を行う前または後に、 (スピーカ ボタン) を押してもかまいません。</p> <p>ハンドセットが受け台に置かれていて、 (ヘッドセット ボタン) が点灯していないときに電話番号をダイヤルすると、通常はスピーカフォンモードが自動的に有効になります。Redial を押した場合や短縮ダイヤルを使用した場合も同様です。</p>
最後にダイヤルした電話番号に リダイヤルする	<p>Redial を押します。別の回線を使用するには、 (回線ボタン) を押し、回線を選択した後に Redial を押します。</p>
履歴からダイヤルする	<p> (ディレクトリ ボタン) > Missed Calls、Received Calls、または Placed Calls を選択します。リストからダイヤルするには、その番号を押すかまたはスクロールして選択し、オフフックにします。</p> <p>ダイヤルする前にプレフィックスやその他の数字を番号に追加するには、EditDial を押します。</p>

目的	操作
電話機の社内ディレクトリからダイヤルする	 (ディレクトリ ボタン) > Corporate Directory を選択します (名前は異なる場合があります)。キーボードで文字を入力して、リストを検索します。名前の一部でも検索できます。リストからダイヤルするには、その番号を押すかまたはスクロールして選択し、オフフックにします。
別のコールがアクティブなときにコールを発信する	Hold を押します。次に、 New Call を押します。その後、ダイヤル、リダイヤル、または短縮ダイヤルの操作を行います。
ヘッドセットを使用してダイヤルする	次のいずれかの操作を実行します。 <ul style="list-style-type: none">  (ヘッドセット ボタン) が点灯していない場合は、ダイヤル、リダイヤル、または短縮ダイヤルの操作を行う前または後にヘッドセット ボタンを押します。  (ヘッドセット ボタン) が点灯している場合は、New Call、Redial を押します。必要に応じて電話番号を入力します。
話し中または呼び出し中の内線が対応可能になったときに通知を受信する	電話番号にコールし、ビジー音または呼出音が聞こえているときに CallBack を押します。切断します。内線が対応可能になると、電話機にメッセージが表示されます。この電話番号へのコールバックは自動的に行われなため、コールを発信する必要があります。コールバックは特別な機能のため、システム管理者に設定を依頼します。
セカンダリ回線でダイヤルする	アクティブ回線は、ビデオ スクリーンの上部に示されます。番号をダイヤルする前に、  (回線ボタン) を押し、使用する回線を選択します。
短縮ダイヤルを使用してダイヤルする	 (回線ボタン) を押し、短縮ダイヤルを選択します。選択された短縮ダイヤルに電話機からコールが発信されます。詳細については、P. 42 の「短縮ダイヤル番号の設定」を参照してください。
プライオリティ (Precedence) コールを発信する	電話番号の前に、システム管理者から提供された MLPP アクセス番号を入力します。詳細については、P. 37 の「重要なコールの優先順位付け」を参照してください。

ヒント

電話番号を間違えて入力した場合は、<< またはキャンセル ボタンを押して数値を消去します。番号内を移動するには、右または左のナビゲーション ボタンを使用します。ダイヤル操作を中止するには、Cancel を押します。

ビデオ コールへの応答

電話コールに応答するのと同じ方法でビデオ コールに応答し、オフフックにします。次の表に詳細を示します。

目的	操作
ハンドセットを使用しているときに応答する	ハンドセットを受け台から取り上げて着信コールに応答します。
ヘッドセットを使用しているときに応答する	 (ヘッドセット ボタン) が点灯していない場合は、ヘッドセット ボタンを押します。  (ヘッドセット ボタン) がすでに点灯している場合は、 Answer を押します。
スピーカフォンで応答する	 (スピーカ ボタン) Answer を押します。
接続コールから切り替えて呼び出し中のコールに応答する	Answer を押します。この操作により、新しいコールへの応答と、最初のコールの保留が自動的に行われます。詳細については、P. 25 の「コールの保留と復帰」を参照してください。
呼出音が 1 ~ 2 回鳴った後で着信コールを自動的に接続するように電話機を設定する	自動応答機能の設定をシステム管理者に依頼します。詳細については、P. 39 の「ヘッドセットまたはスピーカフォン使用時の自動応答」を参照してください。
別の電話機（会議室の電話機など）で保留状態になっているコールを自分で取得するか、または他の人が取得できるようにする	コール パークを使用します。P. 33 の「パークされているコールの保存と取得」を参照してください。
自分の電話機を使用して別の電話機で鳴っているコールに応答する	コール ピックアップを使用します。P. 33 の「呼び出し中のコールを自分の電話機にリダイレクトする」を参照してください。
プライオリティ コールに応答する	現在のコールを切断して Answer を押します。P. 37 の「重要なコールの優先順位付け」を参照してください。
着信コールをボイス メッセージ システムに直接送信する	iDivert を押します。着信コールがボイス メッセージ グリーティングに自動転送されます。

ビデオ コールの終了

電話コールを終了するのと同じ方法でビデオ コールに終了し、切断します。次の表に詳細を示します。

目的	操作
ハンドセットを使用しているときに切断する	ハンドセットを受け台に戻すか、 EndCall を押します。
ヘッドセットを使用しているときに切断する	 (ヘッドセット ボタン) が点灯している場合は、ヘッドセット ボタンを押します。ヘッドセット モードをアクティブにしておく場合は、 EndCall を押します。切断した後もボタンが点灯した状態になります。
スピーカフォンを使用しているときに切断する	 (ヘッドセット ボタン) または EndCall を押します。
複数のコールがある場合に 1 つのコールだけを切断する	EndCall を押します。必要に応じて、コールの保留を解除しておきます。

電話コール

電話番号をダイヤルすると、そのコールは自動的に電話コールとして設定されます。電話コールを発信するには、ビデオ コールに関する説明 (P. 21 の「ビデオ コールの発信」を参照) と同じオプションのいずれかを使用して、番号をダイヤルする前または後にオフフックにします。

コールの保留と復帰

アクティブとなり得るコールは常に 1 つに限定されるので、他のコールはすべて自動的に保留状態になります。

目的	操作
コールを保留にする	保留状態にするコールが強調表示されていることを確認し、 Hold を押します。
コールの保留を解除する	保留を解除するコールが強調表示されていることを確認し、 Resume を押します。
複数の回線で複数のコールが保留状態になっている場合に、そのうちのいずれかのコールの保留を解除する	 (回線ボタン) を押し、復帰するコールが存在する回線を選択します。必要に応じて、保留を解除するコールが強調表示されていることを確認し、 Resume を押します。

ヒント

コールが保留状態になっているとき、通常は音楽やビープ音が流れます。そのため、会議コールは保留にしないでください。

発信ビデオ映像の表示

自分の発信ビデオ映像（自分自身の映像）を表示するには、セルフ ビューまたは子画面（PiP）を使用します。セルフ ビューでは、発信映像はフル スクリーンで表示されます。子画面（PiP）では、発信映像は子画面に表示されます。また、コール中に着信映像が大きい方の画面に表示されるため、着信映像と発信映像の両方を表示できます。セルフ ビューと子画面（PiP）は、コール中でない場合およびビデオ コール中の場合のどちらでも使用できます。

目的	操作
発信映像をフル スクリーンで表示する	 （セルフ ビュー ボタン）を押します。もとに戻すには、もう一度  （セルフ ビュー ボタン）を押します。
発信映像を子画面に表示する	 （子画面ボタン）を押します。
子画面（PiP）をスクリーンの別の隅に移動する	子画面（PiP）をスクリーンの他の 3 つの隅に移動するには、続けて  （子画面ボタン）を押します。
子画面（PiP）を非表示にする	 （子画面ボタン）を 4 回押したときに、子画面（PiP）が消えます。

ビデオまたは音声のミュート機能

ミュートを使用すると、ハンドセット、ヘッドセット、スピーカフォン、および外部マイクロフォンへのビデオ入力や音声入力が無効になります。ビデオ ミュートがオンになっている場合、コールの通信相手の映像は見えますが、自分の映像は通信相手に見えません。音声ミュートがオンになっている場合、コールの通信相手の音声は聞こえますが、自分の音声は通信相手に聞こえません。ビデオ ミュート ボタンとミュート ボタンは、オフにしない限り、オンの状態が維持されます。

目的	操作
ビデオ ミュートをオンにする	 （ビデオ ミュート ボタン）を押します。
ビデオ ミュートをオフにする	 （ビデオ ミュート ボタン）を押します。
音声ミュートをオンにする	 （ミュート ボタン）を押します。
音声ミュートをオフにする	 （ミュート ボタン）を押します。

接続コールの転送

接続コールは転送によってリダイレクトされます。転送先は、コールの転送先となる電話番号です。

目的	操作
転送先の相手と会話せずにコールを転送する	接続コール中に、 Transfer を押し、転送先の電話番号を入力します。コールの呼出音が鳴ったときに、もう一度 Transfer を押しします。
転送先の相手と会話してからコールを転送する（「打診転送」）	接続コール中に、 Transfer を押し、転送先の電話番号を入力します。相手が応答するのを待ちます。相手がコールの転送を承諾した場合は、もう一度 Transfer を押しします。相手がコールの転送を拒否した場合は、 Resume を押して元のコールに戻ります。
現在の2つのコールを相互に転送する（「直接転送」）	その回線における任意のコールをスクロールして強調表示し、 Select を押しします。2番目のコールに対しても同じ処理を行います。選択したコールの1つが強調表示されている状態で DirTrfr を押しします（必要に応じて、最初に more ソフトキーを押します）。2つのコールが相互に接続され、自分のコールは終了されます。 発信者との通信を継続する場合は、代わりに Join を使用して会議を作成します。詳細については、P. 28 の「会議コールの発信」を参照してください。

ヒント

- 保留状態のコールを転送できるのは、直接転送を使用する場合だけです。したがって、直接転送を使用しない場合は、**Resume** を押して、選択したコールの保留を解除してから転送します。
- コールを転送する際には、すべてのコールが同一の回線に存在することを確認してください。

会議コールの発信

会議コールでは、1つのコールに3名以上が同時に参加できます。Cisco IP Video Phone は、必要性和電話機の設定に応じて、いくつかのタイプの会議コールをサポートします。次のソフトキーによって、電話機で利用可能な機能が識別されます。

- **Confrn** : このソフトキーは、各参加者に個別にコールを発信することによって標準の会議を開催するときに使用します。標準の会議コールは、ほとんどの電話機で利用可能なデフォルトの機能です。
- **Join** : このソフトキーは、すでに1つの回線にある複数のコールの間で標準の会議コールを開催するときに使用します。
- **cBarge** : このソフトキーは、共有回線で標準の会議コールを開催するときに使用します。このオプション機能は、共有回線だけで利用可能であり、システム管理者に設定を依頼する必要があります。
- **Meet-Me** : このソフトキーは、指定の時間に参加者が既定の番号にコールする必要のある会議（設定によって異なりますが、参加者数は最大 100 名です）を開催するときに使用します。このオプション機能は、システム管理者に設定を依頼する必要があります。

標準の会議の開催と参加

標準の会議では、1つのコールに3名以上が参加できます。会議は、システム管理者が電話機を設定した方法に応じて、音声会議またはビデオ会議として設定されます。システム管理者は、表示されるビューの種類も設定します。**VidMode** ソフトキーを使用すると、ユーザは会議の音声起動型表示と連続的参加者表示を切り替えることができます。音声起動型表示では、発言中の人が入力スクリーンで表示されます。連続的参加者表示では、すべての参加者が同時にスクリーンに表示されます。

目的	操作
現在の発信者を標準の会議の参加者として追加する	1つの回線に2つ以上のコールがあるとき、その回線で任意のコールをスクロールして強調表示し、 Select を押します。会議に追加するすべてのコールについて、それぞれ同じ処理を行います。選択したコールのいずれかで、 Join を押します（必要に応じて、最初に more ソフトキーを押します）。選択したコールが自動的に会議に追加されます。選択したコールはすべて同一の回線に存在する必要があります。
参加者にコールを発信して標準の会議コールを開催する	接続コール中に、別の発信者をコールに追加するには、 Confrn を押します（必要に応じて、最初に more ソフトキーを押します）。会議の参加者の電話番号を入力します。コールが接続され、会議の参加者と会話した後、 Confrn をもう一度押して、この発信者をコールに追加します。この手順に従って、各参加者を追加していきます。

目的	操作
標準の会議への参加	呼出音が鳴ったら電話機に応答します。標準の会議コールに参加する場合、特別な操作は何も必要ありません。
共有回線を使用して標準の会議コールを開催する	共有回線でコール（リモートで使用中）を強調表示し、 cBarge を押します（必要に応じて、最初に more ソフトキーを押します）。詳細については、P. 34 の「共有回線について」を参照してください。
会議の参加者のリストを表示する	アクティブな会議を強調表示し、 ConfList を押します。会議に参加した順序に従って、参加者がリストに表示されます。最後に追加された参加者がリストの先頭になります。
会議の参加者のリストを更新する	会議の参加者のリストを表示している状態で、 Update を押します。
会議の開催者を確認する	会議の参加者のリストを表示している状態で、リストの末尾までスクロールして、会議の開催者（名前の横にアスタリスク（*）の付いた人物）を検索します。
会議の任意の参加者を削除する	参加者の名前を強調表示し、 Remove を押します。参加者を削除できるのは、会議コールの開催者だけです。
会議に最後に追加された参加者を削除する	会議の参加者のリストで、先頭にある参加者の名前を強調表示し、 Remove を押します。会議に最後に追加された参加者は、常にリストの先頭に表示されます。会議の参加者のリストを表示していない場合は、 RmLstC を押すだけです。参加者を削除できるのは、会議コールの開催者だけです。
標準の会議の終了	切断するか、または EndCall を押します。 切断しても会議が終了しない場合もあることに注意してください。CallManager は Drop Ad Hoc Conference サービス パラメータ（デフォルトは Never）に従って終了を指示しますが、管理者がこのパラメータを「When Conference Creator Drops Out」または「When No OnNet Parties Remain In The Conference」に設定していることがあります。

ヒント

- 標準の会議に参加するには、すべてのコールが同一の回線に存在する必要があります。すべてのコールが同一の回線に存在していない場合は、コールを同一の回線に転送してから会議に追加します。
- Join** の使用を試みたとき、「No Participant Info」というエラーメッセージが表示された場合は、アクティブなコールの他に少なくとも 1 つのコールを選択していることを確認してください（アクティブなコールは自動的に選択されます）。

ミーティングコールの開催または参加

標準の会議では、会議の開催者が参加者にコールする必要があります。これに対して、ミーティングコールでは、指定の時間に参加者がミーティング番号をダイヤルして会議コールに参加できます。ミーティングコールのオプションは特別な機能のため、システム管理者に設定を依頼します。

目的	操作
ミーティングを開催する	利用可能な場合は、 Meet-Me を押します（必要に応じて、最初に more ソフトキーを押します）。システム管理者から提供されたミーティング番号をダイヤルするか、またはヘルプ デスクにお問い合わせください。
ミーティングに参加する	会議の開催者から提供されたミーティング番号をダイヤルします。開催者が会議を開催していなければ、会議には参加できません。 Meet-Me ソフトキーは、開催された会議に参加するためには使用できません。
ミーティングを終了する	切断するか、または EndCall を押します。

別の電話番号へのコール転送

Call Forward All を使用すると、自分の Cisco IP Video Phone にかかってくる着信コールを別の電話番号にリダイレクトできます。Call Forward All は、プライマリ回線だけで使用できます。



(注) Call Forward All の転送先番号は、自分の電話機からダイヤルする場合とまったく同じ番号を入力します。たとえば、必要に応じて「9」などのアクセスコードや地域コードを入力します。

目的	操作
プライマリ回線のコール転送を設定する	CFwdALL を押し、転送先の電話番号を入力します。
プライマリ回線のコール転送をキャンセルする	CFwdALL を押します。
プライマリ回線のコール転送が有効になっているかどうかを確認する	ステータス行と回線のコールの状態を示すアイコンを確認します。コール転送が有効になっている場合、コールの転送先となる番号を示すメッセージがステータス行に表示され、  (コール転送アイコン) がプライマリ回線の上に表示されます。

ヒント

- 従来のアナログ電話機や別の IP ビデオ電話機にコールを転送することはできませんが、システム管理者がコール転送機能を社内の番号に制限している場合があります。
- この機能は回線ごとに設定する必要があります。コール転送が有効でない回線にコールがかかってきた場合、通常どおりコールの呼出音が鳴ります。

応用的なコール処理

応用的なコール処理のタスクには、特別な（標準以外の）機能が伴うため、コール処理の需要や作業環境に応じて、システム管理者に電話機の設定を依頼します。デフォルトの設定では、通常はこれらの機能にアクセスできません。

パークされているコールの保存と取得

コールを「パーク」すると、コールを保存し、Cisco CallManager システムの別の電話機（同僚のデスクや会議室の電話機など）でコールを取得できます。コール パークは特別な機能のため、システム管理者に設定を依頼します。

目的	操作
コール パークを使用してアクティブなコールを保存する	コール中に、 Park を押します（必要に応じて、最初に more ソフトキーを押します）。電話機にコールが保存されます。電話機のスクリーンに表示されたコールのパーク番号を書き留めて、切断します。
パークされたコールを取得する	ネットワーク内の任意の Cisco IP Video Phone でコールのパーク番号を入力し、コールに接続します。



(注) パークされているコールを取得するまでの時間は制限されていて、その時間を過ぎると元の電話機に戻って呼出音が鳴ります。この時間制限については、システム管理者にお問い合わせください。

呼び出し中のコールを自分の電話機にリダイレクトする

コール ピックアップを使用すると、同僚の電話機で呼び出し中のコールを自分の電話機にリダイレクトして、そのコールに応答できます。コール ピックアップは特別な機能のため、コール処理の需要や作業環境に応じて、システム管理者に設定を依頼します。たとえば、コール処理を同僚と分担することが多い場合などに、この機能を使用できます。システム管理者がコール ピックアップ「グループ」を定義します。

目的	操作
グループ内の内線で鳴っているコールに応答する	PickUp を押します。コールの呼出音が自分の電話機で鳴ります。
グループ外の内線で鳴っているコールに応答する	GPickUp を押します。システム管理者から提供されたコールグループ ピックアップ コード番号を入力します。コールの呼出音が自分の電話機で鳴ります。

共有回線について

「共有」回線は、システム管理者が提供する場合があります。共有回線機能は、標準の非共有回線には適用されません。通常、共有回線は主に次の 2 つの用途に適しています。

- 1人が複数の電話機に1つの共有回線を適用する場合：たとえば、共有回線として内線 23456 をデスクの電話機に適用するとします。また、実験室の電話機にログインすることにより、その電話機で一時的に自分の内線を共有することもできます。この場合、内線 23456 への着信コールはデスクと実験室の両方の電話機で鳴り、いずれの電話機を使用してもコールに応答できます。
- 複数の人が1つの回線を共有する場合：たとえば、マネージャとアシスタントが回線と内線番号と共有しているとします。その内線への着信コールは、両方の電話機で鳴ります。

共有回線でサポートされるコールの最大数について

共有回線を使用したコールは、他の回線を使用したコールと同じように発信できます（詳細については、P. 21 の「ビデオ コールの発信」を参照してください）。ただし、システム管理者による共有回線の設定によっては、サポートされるコールの数が、回線を共有する同僚と自分との間で異なる場合があることに留意してください。したがって、同僚が共有回線で新しいコールを発信できる場合でも、自分にはできない場合があります。

たとえば、共有回線として内線 78888 があるとします。そして、自分の電話機は、その共有回線で最大 4 コールをサポートするように設定されています。一方、同僚は同じ共有回線 78888 で最大 5 コールをサポートする電話機を持っています。すでに 4 つのアクティブなコールが共有回線に存在している場合は、自分の電話機からは共有回線を使用して新しいコールを発信できないため、NewCall ソフトキーを使用できません。これに対して、同僚は共有回線で 4 コールではなく最大 5 コールをサポートする電話機を持っているので、新しいコールを発信できます。

共有回線のコールへの参加

共有回線で開設されたコールに参加するには、2 つのオプションがあります。システム管理者が電話機を設定した方法に応じて、通常はこれらのオプションのいずれかを使用できます。

- Barge：進行中のコールに最小限の中断で参加できます。Barge を使用すると、コールの他の参加者に対して自分の存在を知らせるピープ音が鳴ります。割り込みコールに別の発信者を追加することはできません。コールを切断すると、他の参加者に切断音が聞こえ、元のコールが続行します。Cisco IP Phone 7985G からの Barge は可能ですが、Cisco IP Phone 7985G への Barge は不可能です。つまり、発信者は 7985G ビデオ電話機に割り込むことはできません。ただし、着信割り込みをサポートする別のビデオ電話機には割り込むことができます。

- cBarge：進行中のコールに参加し、そのコールを標準の会議に切り替えることができます。この処理によって、標準の会議で使用できる機能が自分とコールの参加者すべてに提供されます（詳細については、P. 28 の「会議コールの発信」を参照してください）。したがって、別の参加者をコールに追加することもできます。cBarge を使用すると、コールの他の参加者にトーンが聞こえ、コールの短い中断が発生して、スクリーンのコール情報が変更されます。コールを切断しても、3 名以上の参加者が残っていれば、そのコールは会議コールとして続行します。

目的	操作
共有回線で同僚がアクティブなコール中かどうかを確認する	共有回線番号を確認します。回線が別の電話機で使用中の場合は、リモートで使用中のアイコン  （共有回線アイコン）が表示されます。 同僚がプライバシー機能を有効にしている場合は、リモートで使用中のコールに関する情報は表示されません。
共有回線における現在のコールを表示する	 （回線ボタン）を押し、回線を選択します。プライベートコール以外はすべてコール アクティビティ領域に表示されます。
共有回線で進行中のコールに参加する	スクリーンでコール（リモートで使用中）を強調表示し、 Barge を押します（必要に応じて、最初に more ソフトキーを押します）。対象の共有回線のコールが保留状態になるか、転送されるか、または会議コールに切り替えられた場合、 Barge を使用して参加していたコールから切断されます。
リモートで使用中のコールに参加し、会議コールを開催する	スクリーンでコール（リモートで使用中）を強調表示し、 cBarge を押します（必要に応じて、最初に more ソフトキーを押します）。

他人による共有回線のコールの表示および参加の防止

共有回線を使用する場合、プライバシー機能を使用すると、その回線を共有している他人がその回線のコールを表示したり、それに参加したりするのを防ぐことができます。プライバシー機能が有効か無効かは、システム管理者が電話機を設定した方法によって決まります。

目的	操作
他人が共有回線のコールを表示したり、それに参加したりすることができないようにする	Private を押します。
他人が共有回線のコールを表示したり、それに参加したりすることができるようにする	Private を押します。

ヒント

- 同僚がプライバシー機能を有効にしている場合は、共有回線が表示されていても、使用中であるかどうかはわかりません。たとえば、同僚が共有回線を使用している場合、通常は、リモートで使用中のアイコンが自分の電話機に表示されます。しかし、プライバシー機能が有効になっている場合は、このアイコンが表示されないため、回線が使用中かどうかを示すものは何もありません。
- 同一の回線を共有する他のすべての電話機でプライバシー機能が有効になっている場合でも、共有回線を使用して新しいコールを発信できます。しかし、この場合、共有回線を使用して進行中のコールに参加することはできません。
- プライバシー機能は、電話機のすべての共有回線に適用されます。その結果、自分の電話機に複数の共有回線がある状態でプライバシー機能を有効にすると、自分の電話機と回線を共有する人は、その共有回線のコールを表示したり、それに参加したりすることができなくなります。

不審なコールのトレース

不審（迷惑）なコールを受信している場合、システム管理者は電話機に Malicious Call Identification (MCID) 機能を追加できます。この機能を使用すると、アクティブなコールを不審なコールとして識別できます。その結果、一連のトラッキングと通知のメッセージが自動的に発信されます。

目的	操作
不審なコールを識別する	MCID を押します。特別なトーンが聞こえ、電話機に「MCID successful」というメッセージが表示されます。このコールは終了しない限りアクティブです。

重要なコールの優先順位付け

軍事施設や政府機関のような特別な環境では、緊急または重要なコールを発信および受信しなければならない場合があります。重要なコールは、他のコールに優先して処理できるように、他のコールよりも高いプライオリティを必要とします。この特別なコール処理が必要な場合は、電話機への Multilevel Precedence and Preemption (MLPP) の追加をシステム管理者に依頼します。

次の用語に留意してください。

- *Precedence* : コールに関連付けられたプライオリティを示します。
- *Preemption* : プライオリティの低い既存のコールを終了して、電話機に送信されたプライオリティのより高いコールを受け入れる処理です。

目的	操作
発信コールのプライオリティ (Precedence) レベルを選択する	コールに対応する Precedence 番号のリスト (最低 ~ 最高の範囲) については、システム管理者にお問い合わせください。
プライオリティ (Precedence) コールを発信する	電話番号の前に、システム管理者から提供された MLPP アクセス番号を入力します。
プライオリティ (Precedence) コールを受信する	特別なコール待機トーンが鳴り、特別なアイコンが着信コールのコール アクティビティ領域に表示されます。
コールのプライオリティ レベルを表示する	<p>コールはプライオリティの高い順にコールのリストの先頭から表示されます。次のアイコンによって、プライオリティの割り当てが表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> アイコンなし : 普通 (日常) のコール  緑色 : プライオリティの低い (プライオリティ) コール  黄色 : 中程度のプライオリティの (即時) コール  オレンジ色 : プライオリティの高い (フラッシュ) コール  赤色 : プライオリティの最も高い (フラッシュ オーバーライド) コール
プライオリティの最も高いコールを受け入れる	アクティブなコールを終了し、プライオリティの最も高いコールに応答する

ヒント

- MLPP が有効なコールを発信または受信すると、標準のトーンとは異なる特別な呼出音とコール待機のトーンが鳴ります。

ヘッドセットとスピーカフォンの使用

次の表では、デバイスの使用方法について説明しています。

目的	操作
ヘッドセットを使用する	<p>ヘッドセット モードのオン / オフを切り替えるには、 (ヘッドセット ボタン) を押します (自動応答を使用している場合は、例外について P. 39 の「ヘッドセットまたはスピーカフォン使用時の自動応答」を参照してください)。</p> <p>ヘッドセットの使用中は、 (音量ボタン) や  (ミュート ボタン) など、電話機のすべてのコントロールにアクセスできます。</p> <p>ヘッドセットの購入については、P. 39 の「ヘッドセットの購入」を参照してください。</p>
スピーカフォンを使用する	<p>スピーカフォン モードのオン / オフを切り替えるには、 (スピーカ ボタン) を押します。</p> <p>ヘッドセットが受け台に置かれていて、 (ヘッドセット ボタン) が点灯していないときに電話番号をダイヤルしたりコールに应答したりすると、通常はスピーカフォン モードが自動的に有効になります。</p>
コール中に(ヘッドセットから)ヘッドセットまたはスピーカフォンに切り替える	<p> (スピーカ ボタン) または  (ヘッドセット ボタン) を押し、ヘッドセットを置きます。</p>
コール中に(スピーカフォンまたはヘッドセットから)ヘッドセットに切り替える	<p>ボタンは何も押さずに、ヘッドセットを取り上げます。</p>

ヒント

- ヘッドセット ポートの位置については、P. 5 の「ビデオ電話機の接続」を参照してください。
- ヘッドセットとスピーカを使用してコールの発信、応答、終了などの処理を行う方法については、P. 20 の「基本的なコール処理」を参照してください。

ヘッドセットの購入

電話機では、2.5mm 径で 3 極タイプのヘッドセットのジャックがサポートされています。ヘッドセットの購入については、<http://www.plantronics.com> の Web サイトで製品、モバイル製品を参照してください。

ヘッドセットまたはスピーカフォン使用時の自動応答

大量の着信コールを受ける場合、または他人のコールを処理する場合は、自動応答を使用すると便利です。自動応答は CallManager で設定されます。システム管理者は、スピーカフォンまたはヘッドセットのいずれかの使用時に自動応答するように設定します。次の表に詳細を示します。

目的	操作
ヘッドセットで自動応答を使用する	<p>EndCall または回線ボタンを押して切断することによって、 (ヘッドセット ボタン) をアクティブ (点灯した状態) にしておきます。</p> <p> (ヘッドセット ボタン) をアクティブにしておくこと、音声の入出力はスピーカフォンではなくヘッドセットを流れ、自動応答はヘッドセットで機能します。</p>
スピーカフォンで自動応答を使用する	<p>通常どおり  (スピーカ ボタン) または  (スピーカ ボタン) を押して、コールの発信、応答、終了、回線の開閉、および別の音声デバイスからスピーカフォン モードへの切り替えを行います。</p>

電話機の設定のカスタマイズ

次の各表に示すように、設定を調整することによって Cisco IP Video Phone を個人設定できます。この情報を利用するときは、次のヒントを参考にしてください。

- ほとんどの設定を電話機で行えますが、一部の設定についてはユーザ オプション Web ページからオンラインでアクセスする必要があります。詳細については、P. 47 の「ユーザ オプション Web ページへのログイン」を参照してください。
-  (設定ボタン) が反応しない場合は、システム管理者が電話機でこのボタンを無効に設定している可能性があります。詳細については、システム管理者にお問い合わせください。

音量の調節

次の表では、電話機の音量レベルを調節および保存する方法について説明しています。

目的	操作
コールの音量レベルを調節する	<p>コール中またはダイヤル トーンが聞こえているときに  (音量ボタン) を押します。</p> <p>この操作は、現在アクティブになっているオーディオモードに対する音量レベルを調節するものです。たとえば、ハンドセットを使用しているときに音量を上げても、スピーカフォンの音量は変化しません。</p> <p>現在のオーディオモードに対する新しい音量をデフォルトとして保存するには、Save を押します。ハンドセット、ヘッドセット、またはスピーカフォンの音量を変更しても、それを保存しなかった場合は、次回そのオーディオモードを使用するときに、音量は前回保存されたレベルに戻ります。</p>
呼出音の音量レベルを調節する	<p>ハンドセットが受け台に置かれていて、ヘッドセットとスピーカフォンのボタンがオフになっている状態で、 (音量ボタン) を押します。設定した呼出音の音量が自動的に保存されます。</p>

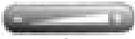
アラート トーンのカスタマイズ

着信コールがあることを電話機で示す方法をカスタマイズできます。

目的	操作
アラート トーンを変更する	Settings > User Preferences > Alert Tone を選択し、電話回線またはデフォルトの呼出音の設定を選択します。呼出音のタイプを選択して、そのサンプルを再生します。目的の呼出音を選択したら、 Select および Save を押します。 Cancel を押すと、前回保存したときの設定に戻ります。

モニタの明るさのカスタマイズ

スクリーンでモニタの明るさを調節できます。

目的	操作
モニタの明るさを変更する	 (明るさボタン) を押し、 Up 、 Down 、または  (音量ボタン) で明るさを調節します。 Settings > User Preferences > Monitor Brightness を選択することもできます。明るさを調節するには、 Up 、 Down 、または  (音量ボタン) を押します。その後、 Save を押します。 Cancel を押すと、前回保存したときの設定に戻ります。

短縮ダイヤル番号の設定

短縮ダイヤル番号を使用すると、電話をかけるたびに実際の電話番号を入力する必要はないので、電話番号をすばやくダイヤルできます。たとえば、頻繁にかける電話番号を短縮ダイヤル番号として割り当てることができます。回線メニューに短縮ダイヤルのリストが表示されます。

短縮ダイヤルを使用するには、次の手順を実行します。

ステップ 1  (回線ボタン) を押します。

ステップ 2 回線メニューで短縮ダイヤルを選択します。その短縮ダイヤルに電話機からコールが発信されます。

次の表に示すように、短縮ダイヤルはユーザ オプション Web ページで設定します。



(注) システム管理者は電話機に短縮ダイヤルを割り当てることができます。また、個人設定できる短縮ダイヤルの数を制限することもできます。

目的	操作
短縮ダイヤル番号を電話機に追加する	<p>ユーザ オプション Web ページにログインし、デバイスを選択して、メインメニューから [短縮ダイヤルの追加または更新] を選択します。</p> <p>[電話の短縮ダイヤル設定] セクションで、利用可能な短縮ダイヤル ボタンごとに電話番号とラベルを入力します。電話番号は、自分の電話機からダイヤルする場合とまったく同じ番号を入力します。たとえば、必要に応じて「9」などのアクセスコードや地域コードを入力します。</p> <p>入力したラベルは、スクリーンの短縮ダイヤル ボタンの横に表示されます。</p>
固定短縮ダイヤル機能で使用する短縮ダイヤル番号を追加する	<p>ユーザ オプション Web ページにログインし、デバイスを選択して、メインメニューから [短縮ダイヤルの追加または更新] を選択します。</p> <p>[電話の短縮ダイヤル設定] で、利用可能な短縮ダイヤル ボタンごとに電話番号とラベルを入力します。電話番号は、自分の電話機からダイヤルする場合とまったく同じ番号を入力します。たとえば、必要に応じて「9」などのアクセスコードや地域コードを入力します。</p>

ヒント

上記のいずれかの短縮ダイヤル方式でコールを発信する場合、その詳細については、P. 21 の「ビデオコールの発信」を参照してください。

ボイス メッセージ、履歴、およびディレクトリの使用

次の表に示すように、ボイス メッセージ、履歴、およびディレクトリにアクセスするには、機能ボタンを使用します。



(注) お使いの電話機システムが使用するボイス メッセージ サービスは、会社によって決定されま
す。ボイス メッセージ サービスの使用方法の詳細については、付属のマニュアルを参照して
ください。

目的	操作
ボイス メッセージ サービスの個人設定	 (メッセージ ボタン) を押し、音声の指示に従います。スクリーンにポップアップ メッセージ メニューが表示された場合は、該当するメニュー項目を選択します。 システム管理者からボイス メッセージ システムのデフォルトのパスワードが提供されます。セキュリティ上の理由から、デフォルトのパスワードは速やかに変更してください。
新しいボイス メッセージの着信を確認する	電話機で次のインジケータを確認します。 <ul style="list-style-type: none">赤い通知ランプが点灯している。封筒アイコン  (ボイス メッセージ アイコン) がスクリーンに表示されている。
ボイス メッセージを聞く、またはボイス メッセージメニューにアクセスする	 (メッセージ ボタン) を押します。  (メッセージ ボタン) を押すことにより、メッセージ サービスに自動ダイヤルされるか、またはスクリーンにポップアップ メニューが表示されます。この動作は、お使いのボイス メッセージ サービスによって異なります。ポップアップ メニューが表示された場合は、Voice Mail または Voice Messages を選択してボイス メッセージ システムに自動ダイヤルします。

目的	操作
着信コール、アクティブなコール、または保留状態のコールをボイス メッセージ システムに送信する	複数の回線またはコールがある場合は、使用する回線またはコールを選択します。iDivert を押します。iDivert によって、コールがボイス メッセージ システムに自動的に転送されます。
履歴を表示する	Directories > Missed Calls、Placed Calls、または Received Calls を選択します。各履歴には最大 100 レコード保存されます。
履歴からダイヤルする	リストの項目を選択します。履歴に表示された電話番号の編集（プレフィックスの追加や削除など）が必要な場合は、EditDial を押します。次に、<< または >> を押して、数値を消去したりカーソルを移動したりします。右または左のナビゲーション ボタンを使用して、番号内を移動することもできます。削除には X ボタンを使用します。
履歴を削除する	Directories > Missed Calls、Placed Calls、または Received Calls を選択します。Clear を押します。
社内ディレクトリからダイヤルする	Directories > Corporate Directory を選択します（名前は異なる場合があります）。キーパッドで文字を入力して、リストを検索します。名前の一部でも検索できます。リストからダイヤルするには、その番号を押すかまたはスクロールして選択し、オフフックにします。

ユーザ オプション Web ページへのアクセス

Cisco CallManager のユーザ オプション Web ページを使用すると、自分のコンピュータから電話機サービスの設定、カスタマイズ、有効化を行うことができ、また設定値と機能も制御できます。電話機サービスを設定したら、自分の電話機から電話機サービスにアクセスできます。

ユーザ オプション Web ページの詳細については、次の Web サイトで『*Web での Cisco IP Phone のカスタマイズ*』を参照してください。

http://www.cisco.com/univercd/cc/td/doc/product/voice/c_ipphon/english/ipp7985/index.htm

ユーザ オプション Web ページへのログイン

ユーザ オプション Web ページにログインするには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 コンピュータで Web ブラウザを起動し、システム管理者から提供された URL を入力してログインします。

ステップ 2 総合メニューのデバイスを選択するドロップダウン リストから、デバイス タイプ（電話機のモデルとイーサネット（MAC）アドレス別に表示される）を選択します。

選択したデバイス タイプに対応したオプションが、コンテキスト メニューに表示されます。

ユーザ オプション ページのナビゲートに関するヒント

- 該当するオプションをすべて表示するには、メニュー ページでデバイスを選択します。
- 変更内容を適用して保存するには、[**更新**] をクリックします。
- コンテキスト メニューに戻るには、[**メニューに戻る**] をクリックします。
- ユーザ オプション ページを終了するには、[**ログオフ**] をクリックします。

その他の設定オプションについて

システム管理者は必要に応じて、特別なサービスや機能の他に、特別なボタンやソフトキーのテンプレートを使用するように電話機を設定できます。次の表は、設定オプションの概要について説明しています。コールの需要や作業環境に応じたオプションの設定について、電話機のシステム管理者と相談するときに役立ちます。

目的	操作	参照先または問い合わせ先
電話回線が1本では足りない	追加の電話番号の設定をシステム管理者に依頼します。回線は2本までしか持てないことに注意してください。	システム管理者または電話機のヘルプデスクにお問い合わせください。
秘書と仕事をしている（または自分が秘書である）	共有回線の使用を検討してください。	次の説明を参照してください。 <ul style="list-style-type: none">• <i>Cisco IP Manager Assistant</i> コーザガイド• 共有回線について (P. 34)
1つの内線を複数の電話機で使用する	共有回線が必要です。共有回線を使用することで、たとえば1つの内線番号をデスクの電話機と携帯電話で使用することができます。	P. 34の「共有回線について」を参照してください。
電話機やオフィススペースを同僚と共有している	次の機能の導入を検討してください。 <ul style="list-style-type: none">• コールパーク：転送機能を使用せずに、コールを保存および取得できます。• コールピックアップ：別の電話機で鳴っているコールに自分の電話機で応答できます。	<ul style="list-style-type: none">• これらの機能の入手方法については、システム管理者または電話機のヘルプデスクにお問い合わせください。• これらの機能の使用方法については、P. 32の「応用的なコール処理」を参照してください。
頻繁にコールに応答する、または他の人の代理でコールを処理する	自動応答の使用を検討してください。この機能の設定は、システム管理者に依頼します。	P. 39の「ヘッドセットまたはスピーカフォン使用時の自動応答」を参照してください。

シスコ製品（ハードウェア）に関する 1 年間の限定保証規定

保証期間内にお客様が受けられるハードウェアの保証およびサービスに関して適用される特別な条件があります。シスコのソフトウェアに適用される保証およびライセンス契約書を含む正式な保証書は、Cisco.com から入手できます。次の手順を実行して、Cisco.com から *Cisco Information Packet* および保証書とライセンス契約書にアクセスし、これらをダウンロードしてください。

1. ブラウザを起動し、次の URL に進みます。

http://www.cisco.com/univercd/cc/td/doc/es_inpk/cetrans.htm

Warranties and License Agreements ページが表示されます。

2. *Cisco Information Packet* を表示するには、次の手順を実行します。

- a. **Information Packet Number** フィールドをクリックし、製品番号 78-5235-03A0 が選択されていることを確認します。
- b. 文書を表示する言語を選択します。
- c. **Go** をクリックします。

Information Packet の Cisco Limited Warranty and Software License ページが表示されま
す。

- d. このページから文書をオンラインで見ること、PDF アイコンをクリックして、文書を PDF (Adobe Portable Document Format) 形式でダウンロードし、印刷することもできます。



(注) PDF ファイルを表示し、印刷するには、Adobe Acrobat Reader が必要です。これは、Adobe の Web サイト <http://www.adobe.com> からダウンロードできます。

3. お手持ちの製品について、翻訳またはローカライズされた保証情報を表示するには、次の手順を実行します。

- a. Warranty Document Number フィールドに、次の製品番号を入力します。
78-10747-01C0
- b. 文書を表示する言語を選択します。
- c. **Go** をクリックします。

Cisco warranty ページが表示されます。

- d. このページから文書をオンラインで見るとも、PDF アイコンをクリックして、文書を PDF (Adobe Portable Document Format) 形式でダウンロードし、印刷することもできます。

また、Cisco Service and Support の Web サイトにアクセスして、サポートを受けることもできます。

http://www.cisco.com/public/Support_root.shtml

ハードウェア保証期間

1 年間

ハードウェアに関する交換、修理、払い戻しの手順

シスコ、またはその代理店では、Return Materials Authorization (RMA) 要求を受領してから、10 営業日以内に交換部品を出荷するように商業上合理的な努力を致します。お届け先により、実際の配達所要日数は異なります。

シスコは購入代金を払い戻すことにより一切の保証責任とさせて頂く権利を留保します。

Return Materials Authorization (RMA) 番号の入手

製品を購入されたシスコの代理店にお問い合わせください。製品を直接シスコから購入された場合は、シスコの営業担当者にお問い合わせください。

次の項目を記入して、参照用に保管してください。

製品の購入先	
購入先担当者の電話番号	
製品モデル番号	
製品シリアル番号	
メンテナンス契約番号	



Index

C

- cBarge 29
- CFwdALL 31
- Cisco IP Phone 7985G
 - 外観 10
 - 図 10
- Cisco IP Video Phone 7985G
 - 概要 7
 - ケーブルの接続 5
- ConfList 29
- Confm 28

D

- DirTrfr 27

I

- ID 13

J

- Join 28

L

- LCD モニタ 9

M

- MCID 36

P

- Precedence 37
- Preemption 37

W

- Web ページ 46

あ

明るさ

- 明るさボタン 10
- モニタの明るさ 41
- アラートトーン 41
- 安全 2

お

オプション

- 設定オプション 48
- ユーザ オプション Web ページ 46
- オフフック
- オフフック アイコン 15

オンフックとの違い	14
説明	14
音声ミュート	
音声ミュートの使用	26
オンフック	
オフフックとの違い	14
オンフック アイコン	15
説明	14
音量	
音量の調節	40
音量ボタン	11
か	
会議	
会議コール	28
会議の開催	28
会議への参加	28
ミーティング会議コール	30
回線	
コールとの違い	14
説明	14
回線ボタン	10
外部デバイス	4
カメラ	
傾き	20
カメラの明るさ	20
カメラの説明	9
カメラの調節	20
カメラのレンズ キャップの装着	9
焦点	20

き	
キーパッド	
説明	9
ボタン	10
機能、利用可能な	19
機能ボタン	18
機能メニュー	18
キャンセル ボタン	11
共有回線	34
共有回線アイコン	15
サポートされるコールの最大数	34
自分自身の参加	34
他人による参加の防止	36
他人による表示の防止	36

け	
警告	2

こ	
コール	
会議コール	28
共有回線	15
コールと回線の違い	15
コールのアイコン	15
コールの切り替え	17
コールの終了	24
コールの選択	16
コールの転送	27, 31
コールの保留	15
コールの優先順位付け	37
コールのリダイレクト	33

コールへの応答	23	スピーカフォンの使用	38
サポートされる数	15	説明	9
接続コール	15		
説明	15	せ	
パークされているコール	33	設定	
不審なコールのトレース	36	機能メニュー	18
コールの概要	13	設定ボタン	12
コールの選択	16	電話機の設定	40
コールの転送	27, 31	セルフ ビュー	
コールのトレース	36	セルフ ビュー ボタン	10
コールの優先順位付け	37	発信ビデオ映像の表示	26
コールのリダイレクト	33		
子画面 (PiP)		そ	
子画面ボタン	11	ソフトキー	10
発信ビデオ映像の表示	26		
		た	
さ		ダイヤル	21
サービス		短縮ダイヤル番号	42
機能メニュー	18		
サービス ボタン	11	ち	
		チェック マーク	16
し			
自動応答	39	つ	
		通知ランプ	10
す		通話時間	13
スクリーン			
LCD モニタ	9		
スクリーン レイアウト	13		
スピーカ			
自動応答	39		
スピーカ ボタン	11		

て			
ディレクトリ			
機能メニュー	18		
ディレクトリ ボタン	12		
ディレクトリの使用	44		
テキスト	18		
電源ケーブル	5		
転送	27		
電話コール	24		
		ビデオ コールの終了	24
		ビデオ コールの発信	21
		ビデオ コールを発信する前に	20
		ビデオ ミュート	
		ビデオ ミュート ボタン	12
		ビデオ ミュートの使用	26
		ビデオ 映像	
		自分のビデオ映像の表示	20
		発信ビデオ映像の表示	26
		表示ボタン	10
な		ふ	
ナビゲーション ボタン	11	復帰	25
		プライマリ回線	13
ね		へ	
ネットワーク ケーブル		ヘッドセット	
PC ポート	5	自動応答	39
SW ポート	5	ヘッドセット ボタン	11
		ヘッドセットの使用	38
		ヘッドセットのプラグ	5
は		ヘルプ	
パークされているコール	33	機能メニュー	18
番号のボタン	11	ヘルプ ボタン	11
ハンドセット		ヘルプの表示	19
説明	9		
ハンドセット ブラケットの取り付け	6	ほ	
ハンドセットのプラグ	5	ボイス メッセージ	44
		保留	
ひ		保留アイコン	15
ビデオ コール		保留の使用	25
コールへの応答	23		

ま

マイクロフォン 9

み

ミートミー 30

ミュート

ミュート ボタン 11

め

メッセージ

機能メニュー 18

メッセージ ボタン 11

も

文字のボタン 11

よ

呼び出し中のアイコン 15

り

履歴 44

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラス B 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

Cisco Systems has more than 200 offices in the following countries. Addresses, phone numbers, and fax numbers are listed on the Cisco Website at www.cisco.com/go/offices

Argentina • Australia • Austria • Belgium • Brazil • Bulgaria • Canada • Chile • China PRC • Colombia • Costa Rica • Croatia • Cyprus • Czech Republic • Denmark • Dubai, UAE Finland • France • Germany • Greece • Hong Kong SAR • Hungary • India • Indonesia • Ireland • Israel • Italy • Japan • Korea • Luxembourg • Malaysia • Mexico The Netherlands • New Zealand • Norway • Peru • Philippines • Poland • Portugal • Puerto Rico • Romania • Russia • Saudi Arabia • Scotland • Singapore Slovakia • Slovenia • South Africa • Spain • Sweden • Switzerland • Taiwan • Thailand • Turkey • Ukraine • United Kingdom • United States • Venezuela • Vietnam • Zimbabwe

CCSP, CCVP, Cisco Square Bridge のロゴ、Follow Me Browsing、および StackWise は、Cisco Systems, Inc. の商標です。Changing the Way We Work, Live, Play, and Learn、および iQuick Study は、Cisco Systems, Inc. のサービスマークです。Access Registrar, Aironet, ASIST, BPX, Catalyst, CCDA, CCDP, CCIE, CCIP, CCNA, CCNP, Cisco, Cisco Certified Internetwork Expert のロゴ、Cisco IOS, Cisco Press, Cisco Systems, Cisco Systems Capital, Cisco Systems のロゴ、Cisco Unity、Empowering the Internet Generation、Enterprise/Solver、EtherChannel、EtherFast、EtherSwitch、Fast Step、FormShare、GigaDrive、GigaStack、HomeLink、Internet Quotient、IOS、IP/TV、iQ Expertise、iQ のロゴ、iQ Net Readiness Scorecard、LightStream、Linksys、MeetingPlace、MGX、Networkers のロゴ、Networking Academy、Network Registrar、*Packet*、PIX、Post-Routing、Pre-Routing、ProConnect、RateMUX、ScriptShare、SlideCast、SMARTnet、StrataView Plus、TeleRouter、The Fastest Way to Increase Your Internet Quotient、および TransPath は、米国および一部の国における Cisco Systems, Inc. とその関連会社の登録商標です。

このマニュアルまたは Web サイトで言及されている商標はすべて、それぞれの所有者のもです。「パートナー」という語の使用は、シスコと他社の提携関係を意味するものではありません。(0502R)

Copyright © 2005, Cisco Systems, Inc.
All rights reserved.

お問い合わせは、購入された各代理店へご連絡ください。



シスコシステムズ株式会社

URL:<http://www.cisco.com/jp/>

問合せ URL:<http://www.cisco.com/jp/service/contactcenter/>

〒 107-0052 東京都港区赤坂 2-14-27 国際新赤坂ビル東館

TEL.03-5549-6500 FAX.03-5549-6501

DOC-J-7816798=
78-16798-01
fhh0510-01